

1. 総括

専門機関からの紹介や、ホームページを見ての問い合わせ等、不登校の相談が増えてきた。保護者支援、訪問、送迎などの個別対応を行った。1対1の丁寧な支援によって支援員との信頼関係を築き、小グループでの活動に参加できるようになり、問題行動が減り、就労体験や学習に取り組めるようになった児童もいた。

高卒取得希望者への学習支援では、レポート作成、オンラインスクリーニングなど体調に配慮しながら行った。

また、外に出るのが難しい、人と会うのが不安な児童生徒に対しては、訪問指導を行い、興味関心のあるアニメと一緒に書くことなどを通して、信頼関係を作り、徐々に学習支援に結び付けていった。訪問が定着し、送迎して通所できるようになるなど成果がみられた。

施設外の活動場所として文化活動交流館のカフェピュルテでは、子ども食堂ネットワークが運営するカフェを手伝い、接客や調理補助の実習をした。

樫山教室では、卓球が専門化し、中学校の部活以上の練習内容を経験し、充実感が持てた様子であった。音楽活動では、専門家を交えたバンド活動が実現でき、卒業式その他のイベントで発表をすることができた。音楽を通して、コミュニケーションスキルの向上にもつながった。

「ほわっと自然村」では、農業や環境整備の活動を行い、イベントに向けての準備、研修会へ参加を通じて、多様な人の価値観に触れることに役立った。

地域課題である不登校引きこもり問題への解決のため、今年度は指導員を増員し、様々なニーズに個別に対応できる体制を構築した。

2. 年間利用者数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 稼働日数 | 25 | 22 | 26 | 25 | 23 | 24 | 25 | 20 | 24 | 24 | 23 | 26 |
| 延利用者数 | 96 | 93 | 106 | 101 | 94 | 122 | 111 | 74 | 119 | 135 | 123 | 149 |
| 一日平均利用者数 | 3.8 | 4.2 | 4.0 | 3.8 | 4.0 | 5.0 | 4.4 | 3.7 | 4.9 | 5.6 | 5.3 | 5.7 |

※主な欠席理由：体調不良・精神不安定・家事都合

3. 担当職員

児童発達支援管理責任者：神戸 真弓

児童指導員・事業部長：島中 令子

公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士：野沢 愛美

公認心理師：中尾 貞人

社会福祉士：伊谷野 恵

児童指導員：福田 精

児童指導員：神原 尚美

児童指導員：鈴木 祥夫

児童指導員：斉藤 加居

指導員：島中 智也
指導員：渡邊 仁
指導員：野本 敏希
指導員：藤沼 清美
指導員：豊島 渉
指導員：伴 裕太郎

4. 成果と課題

(1) 生活能力の向上

【成果】

- ・個々のできることに着目し、長所や興味関心を生かしながら、プログラムを組み立てたところ、自己肯定感が増し、表現する意欲につながった。
- ・eスポーツに参加し、成果をあげられたことで、自信を深め、人に会うことや、新しい場所への苦手さが改善され、対人関係能力も高めることができた。また、チームでプレイすることで他を思いやる力がつき、友人関係を深めることができた。
- ・学習の時間と余暇の時間と場所を分けて活動したことによって、ルールを守ることが身についた。

【課題】

- ・午後からの活動のみになっていたため、出席者が少なくなってしまった。

(2) 社会との交流促進

【成果】

- ・ほわっと自然村での活動を通して、世代を超えた交流ができた。自分の好きなことをやることで自信が付き、そのほかの活動にも参加できるようになった。
- ・文化活動カフェ活動では、調理補助や接客の実習に取り組み、接客マナーなどを身に着けることができた。収益と支出の記録を付けながら、会計の基礎を学んだ。

【課題】

- ・文化活動カフェが3月末で閉店になってしまった。

(3) 広報活動

【成果】

- ・不登校児童生徒の保護者がホームページを見て、フリースクールの見学を希望、病状を踏まえて個別対応が必要なところからEpicの利用につながった。
- ・子ども総合サポートセンターの家庭相談員、青少年相談員から、不登校児童生徒の紹介が多かった。

【課題】

- ・行き場をなくしている不登校児童生徒へのさらなる広報活動が必要である。

(4) 家庭連携・関係機関連携

【成果】

- ・家庭相談員が仲立ちとなり、小中学校との連携が取れるようになった。不登校生徒の進路指導を兼ねた見学体験の場が持てた。
- ・週1回の家庭訪問が定着した。興味のある活動からコミュニケーションをとり、活動と学習を組み合わせ対応した。家族の孤立感や行き詰まりも解消されつつある。

【課題】

子ども総合サポートセンターから相談があったが、家から出ることが難しいということでつながってないケースがある。Epicでできることを吟味したうえで訪問などの取り入れていく必要がある。